琉球新報 2012年(平成24年)9月11日火曜日 30面 【社会】 掲載

宝石サンゴに新種

108年ぶり確認 美ら海職員ら

高知県沖で採取されたイボモモイロサンゴ

長崎県五島沖で採取されたゴトウモモイロサンゴ（いずれも美ら海水族館提供）

【本部】美ら海水族館（本部町）の野中正法・魚類課長らはこのほど、ニュージーランドの学術誌「ズータクサ（zootaxa）」に掲載した論文で宝石サンゴ2種の新種を確認したと発表した。日本産宝石サンゴの新種確認は1904年以来108年ぶり。

新種と確認されたのは明治時代に日本で採取され、スミソニアン博物館（米ワシントンDC）が保管していた標本8点のうちの二つ。高知県沖で採取されたものは「イボモモイロサンゴ」、長崎県五島沖で採取されたものは「ゴトウモモイロサンゴ」と名付けられた。論文は野中課長とキャサリン・ミュジック博士（ハワイ・ビショップ博物館）、岩崎望教授（立正大）との連名で発表。細かい骨片があることやサンゴ虫の付き方が従来の種と異なっていた。

宝石サンゴはモモイロサンゴやアカサンゴなどの種類があり、工芸・装飾品に使われるが、絶滅の恐れがあるとされる。16日には野中課長が講師を務める深海サンゴの講演会が午後1時半から美ら海水族館近くの総合休憩所で開かれる。